

# ミライカナエル活動サポート事業

～令和4年度実施事業報告～



## 市民活動は未来へ

藤沢市役所 市民自治推進課  
電話 0466-50-3516  
FAX 0466-50-8407  
E mail fj1-jiti-s2@city.fujisawa.lg.jp



## スタート支援コース

番号	区分	団体名	事業名
1	一般枠	すまいるらぼ	拠点カルチャーすまいるらぼ事業
2	一般枠	特定非営利活動法人 ぐるんとびー	産前産後ケア事業 “No! 孤育て”

## ステップアップ支援コース

番号	団体名	事業名
1	NPO法人 とことこ	『Wa project』～ツナグ～
2	NPO法人 紙芝居Project	紙芝居で育む子どもたちの未来と郷土愛
3	Rankup	貧困世帯に向けた子ども支援事業

## 協働コース

### ・ 事業1年目(2年間実施)

番号	区分	団体名	協働相手	事業名
1	行政以外との協働	特定非営利活動法人 湘南食育ラボ	特定非営利活動法人 laule'a	ハレの日を楽しむユニバーサルレストラン
2	行政以外との協働	関内イノベーションイニシアティブ株式会社	株式会社フジマニパブリッシング	湘南セカンドキャリア地域起業セミナー

### ・ 事業2年目(2年間実施)

番号	区分	団体名	協働相手	事業名
1	行政との協働	特定非営利活動法人 自立生活サポートセンター・もやい	藤沢市 地域共生社会推進室	孤立状態にある人と共に生きるための畑作り
2	行政との協働	フジサワキカク	藤沢市 広報シニアプロモーション課	#フジサワの高校生

**〈令和4度〉ミライカナエル活動サポート事業 スタート支援コース**

<b>団体名</b>	すまいるらぼ
<b>事業名</b>	拠点カルチャーすまいるらぼ事業
<b>補助金額</b>	200,000円

**事業の目的**

本事業は、地域の市民が集い親睦を深める場を提供し、カルチャー講座の自主的運営によって、シニア世代が心身共に健康で自立し、生き生きと暮らす環境作りに貢献することを目的とする。

**事業の内容と成果・効果**

〈事業の経過と内容〉

『IT サポート(動画)講座』 11/7 〈参加者5人〉

『クールダウン講座』 9/8 〈参加者 10人〉 10/3 〈参加者 6人〉 1/12 〈参加者 17人うち非会員 5人〉 2/6 〈参加者 10人うち非会員 2人〉

・会員へのアンケートやヒアリングを通して、1 講座無料や開催場所の工夫を実施した結果、講座に参加する会員が増えた。会員の積極的な参加で講座が活性化し、すまいるらぼ会員以外の参加もあった。

『スキヤキ体操講座』 10/13 〈参加者 9人〉 11/10 〈参加者 18人〉

・クールダウン講座同様、ダンスレッスン終了後に場所を移動せず、そのままの流れでスキヤキ体操講座を受講できる様に工夫した。

『すまらぼ cafe』外部講師によるカルチャー講座(お茶会) 8/10「癒し旅」〈参加者5人〉 9/28「English Tea Party」〈参加者5人〉 11/16「心トトノエ数秘術」〈参加者12人〉 2/1「フラワーアレンジ」〈参加者3人〉

〈成果・効果〉

『IT サポート講座』と『すまらぼ cafe』

・30代 40代の外部講師を迎えることで、異世代交流ができた。プレシニア世代に、シニアの集いの場『すまいるらぼ』を知ってもらい機会を作る事ができた。

・Instagram や Tiktok を継続して投稿する事で、シニア活動を多くの方に知ってもらい機会が増えて認知度が上がり、会員のモチベーションアップにも繋がった。

『スキヤキ体操講座』

まずスキヤキ体操に慣れてもらい、親しみを感じる様にすることからスタートし、継続的な基盤作りを心掛けることにした。

・知る→わかる→できる→わかちあう→広める と、シニアのペースで展開していく様に修正した。

・2021年10月に会員20人(うち藤沢市民4人)からスタートした『すまいるらぼ』だったが、1年半に亘る会員の努力で、下は50歳から上は87歳までと幅広い年齢層のシニアダンスメンバーが80人(うち藤沢市民20人)を超え、会員の母数を増やす事ができた。

・タウンニュースを見た市内の体操サークルから、スキヤキ体操の講師依頼(有料)も入った。

活動の様子はInstagramで！

令和4年度 藤沢市ミライカナエル活動 サポート事業採択団体 『みんなでつくる笑顔と元気の集う場所』

シニアのためのスキヤキ体操とダンス体験講座

2023年2月9日(木) 3月9日(木) 10:00~11:00

スキヤキ体操はどなたでも楽しめるダンスです。スタジオ HANA1のインストラクターが丁寧に指導します！！

初心者大歓迎！！

対象・定員 50歳以上・10人先着順  
参加費 1,000円  
持ち物 タオル・飲み物・室内用の運動靴  
動きやすい服装でお越しください

講師は すまいるらぼ HPでご確認ください

場所 藤沢市辻堂神台2-2-2 ココテラス湘南1階スタジオHANA1 (辻堂駅北口徒歩5分)

【お問い合わせ先】 すまいるらぼ 080-6510-1078 (大野) 090-4713-5834 (佐藤)

申し込みは、毎月1日よりEメールでお願います→

**事業を実施しての課題**

・当初法人化するかどうかを検討していたが、まずは基盤作りに徹し、会員が継続して参加できる環境作りを優先することとした。

・シニアダンスメンバーが増えたことで、会費を募ることなく、会の運営ができるようになった。

・当団体の課題として、年齢や経験など多様化するメンバーへの対応や、運営スタッフの育成が望まれる。

〈令和4度〉ミライカナエル活動サポート事業 スタート支援コース

団体名	特定非営利活動法人 ぐるんとびー
事業名	産前産後ケア事業 “No! 孤育て”
補助金額	200,000円

事業の目的

地域の子育て中の母親たちの身体と心の健康をサポートし、居場所を作ることで孤育てを防ぎ、もう一人産み育てたいと思える地域をつくること。地域に「ママトレ産後ヨガ」を知ってもらうこと

事業の内容と成果・効果

〈事業の経過と内容〉

産前産後のヨガに特化した「ママトレ産後ヨガ」プログラムを開催。双子連れやパートナーと一緒に参加することもあった。参加者が増えた10月にヨガマットを購入、見守りボランティアを増やし、安心して参加できるよう努めた。参加者が増えたことで、ヨガの後に事業の中で「コーヒーを飲みながらのおしゃべりタイム」を設け、場づくりに色を添えた。寒い時期こそその心身のメンテナンスの大切さ、家に籠る結果から孤育てにつながらないようにするには、SNSを使い、知っていたくことを重要視した。また、計画をしていたアンケートを実施。導き出された結果により、広報強化や場の運営について再度検討となった。

2023年1月にインストラクターの体調不良により、開催回数を減らすことを選択。開催回数の縮小したことにより地域の皆さまと直接お話しすることや顔の見える関係の強化、講師謝金にかかる分を広報（チラシの配架）に力を入れていくことに変更。

新たに両面チラシを作成し、ポスティング機能付きで安価な業者選びをした。事業終了間際の2～3月、インストラクターの体調不良により、ヨガの手法も、負担のない、口伝えでもできるものに変更をしていった。

〈成果・効果〉

参加人数：合計 39組 74名 開催回数：20回（子連れ参加：36組 ママ単身での参加：3組）  
 子どもの年齢：2ヶ月～6ヶ月：23組 7ヶ月～1歳：10組 1歳～3歳：2組 3歳以上：1組  
 参加した母たちの症状にあわせて、随時プログラムも変更。母たちがリラックスすることで、一緒にいた子どもたちもリラックスし、1歳前の子たちでも共に触れ合い遊びあうことも見受けられた。



事業を実施しての課題

インストラクターと見守りボランティアでの場の運営での事業ではあったが、後半にインストラクターの体調不良が続き、それにより、開催回数を減らす結果となった。事業開始の時は、他の団体からインストラクターを招くことも計画し、予算にも組み込んでいたが、当法人のインストラクター1人での開催に切り替えた。産前産後の母子を支えていくためには、インストラクターの育成も必要でありヨガだけではない部分での連携も必要で、身体の専門家である療法士に声掛けも続けている。地域で活動をしていくには「個の力の育成」以上に「支え合う力」の育成、も大きな課題であることがわかった。また、「ミライをカナエル」には場を知らせること、手段、場を続けることも事業の大きな課題であった。

## 〈令和4度〉ミライカナエル活動サポート事業 ステップアップ支援コース

団体名	NPO法人とことこ
事業名	『Wa project』～ツナグ～
補助金額	500,000円

### 事業の目的

地域や世代を超えて、いざというときも助け合い安心して過ごせるようなつながりをつくることを目的とする。藤沢に暮らす人も訪れる人もキュンとする、過ごしやすい地域作りを目指し『Wa』環を繋げていきたい。

### 事業の内容と成果・効果

〈事業の経過と内容〉 (8～3月のスタッフ含む参加者総数)

#### 【定期イベント】

- 毎月第1土曜 あおぞらおはなしかい 鵜沼橋公園 (306名)
- 毎月第1・3火曜 つどいの場とことこcafé 鵜沼橋市民の家 (111名)
- 毎月1回 ビーチクリーン鵜沼海岸 地域住民・学生・他団体と協同 (205名)
- 毎月第2・4木曜 藤が谷親子の縁側 藤が谷市民の家 (見守りサポート)



#### 【イベント】

- 8月 地震体験・消防署見学 協力：藤沢南消防署・危機管理課  
・鵜沼市民センター・KFP・一ツ星学院ほか (100名)
- 9月 くげぬままち歩き 協力：鵜沼郷土資料展示室・鵜沼市民センターほか (10名)
- 10月 片瀬江ノ島駅のひみつ大発見 協力：小田急電鉄 (52名)
- 10月 ハロウィンパレード 協力：本鵜沼駅前商店街・鵜沼防犯協会・KFP (39名)
- 11月 アンチエイジングと介護のはなし (18名) 協力：いきいきサポートセンター他
- 12月 笑って年忘れ落語と防犯のはなし (21名) 協力：消費生活センター・やすらぎ落語塾  
・鵜沼防犯協会
- 1月 やってみたいくなる防災テク 協力：鵜沼自治連だより掲載 (39名)
- 2月 藤沢の昔話/湘南なぎさ荘 協力：湘南藤沢文化ネットワークほか (26名)
- 3月 防災アウトドアクッキング 協力：健康処療の家 (11名)



【出張おはなしかい】幼稚園・学童・小学校・サミットテラスモール湘南店ほか (計11回)

【SNS】Facebook グループ「鵜沼を愛する会 Wa project」で地域の情報や課題も共有  
登録者 1,570名 2023年3月31日現在 (2021年7月立ち上げ)



#### 〈成果・効果〉

とことこが主催・共催した活動に参加した延べ1000人以上！  
地域の方・団体・企業・商店街と協同してベビーからシニアまでたくさんの笑顔のWaをツナグことができました。  
ママ友やシニアの仲間づくり、地域の方々の活躍の場にも貢献することができて嬉しく思います。

### 事業を実施しての課題

支えやコミュニティを求める方達と繋がるための広報力をもっと強化していきたいです。  
つどいの場「とことこCafé」のメインターゲットである入園前の親子は0歳代～1歳で復職する家庭が多いです。  
特に不安を感じがちな妊娠期間中や新生児期から繋がる必要性を感じています。

〈令和4度〉ミライカナエル活動サポート事業 ステップアップ支援コース

団体名	NPO 法人紙芝居 Project
事業名	紙芝居で育む子どもたちの未来と郷土愛
補助金額	500,000円

事業の目的

子どもたちの未来と郷土愛を育む「『江島縁起』紙芝居口演」を継続・発展させていく為、口演を支える演者やクリエイターを育成し、シニア世代を中心とした生きがい創造と、子どもたちの健やかな発育に貢献する。

事業の内容と成果・効果

〈事業の経過と内容〉

① 湘南紙芝居講座の開講

講師：澤田けい子氏（紙芝居文化推進協議会 理事）

会場：藤沢市本庁舎市民利用会議室

第一期目 11月5日（土）、12日（土） 10名（満員）

第二期目 3月18日（土）、25日（土） 9名（応募は満員の10名、内1名が欠席）

本事業には、8名のボランティアが講座のお手伝いをしてくださった。



② オリジナル紙芝居の制作

藤沢の歴史を学べる作品を制作した。作品の骨格となるシナリオ原案を、藤沢市在住のクリエイターに作成していただいた。イラスト制作は、紙芝居師あんぢさんに依頼をした。また、作品の主人公的キャラクターには、著作権者の藤沢愛さんに許可をいただき地元で活躍する「江ノ島さんぼ」を起用した。また、内容については、藤沢市郷土歴史課、シティプロモーション課にもご協力をいただいた。そして、この作品を広く市民の方々に親しんでいただける様に、市販用として製

本を合同会社シマダ出版に依頼をし、書籍『おでかけケンちゃん大発見！藤沢市編』として出版していただいた。

〈成果・効果〉

- ・一期2日間の講座を二期開催し、受講者19名（見学者1名）。
- ・受講の結果、当法人の会員となってくださった方が、1名。

参加者の多くが、退職後のシニア層で、見込んでいたターゲットにしっかりとリーチ出来ていた。参加者のほとんどが、今後も紙芝居の講座を希望、もしくは練習会の開催を希望していて、継続して学んでいきたい意向を表現していた。今後のボランティアへの参加についても前向きな回答を多くいただけた。これについても、目的としていた「セカンドキャリア」への意欲向上につながった。本事業により制作した紙芝居『おでかけケンちゃん大発見！藤沢市編』と『江島縁起』は、藤沢市を楽しく学ぶことができるツールとして、誰でも手にすることが出来るものとして制作・完成することができた。

**湘南紙芝居講座**

第一期

■内容 紙芝居の演じ方を学ぶ2日間の講座です。紙芝居の基礎から、実演のコツなど、経験豊富なベテランの講師が丁寧に指導してくれます。紙芝居が初めての方でもわかりやすく、楽しみながら学ぶことが出来ます。

■開催概要 紙芝居講座（2日間）

(1) 日時 2022年11月5日（土）、11月12日（土）の2日間  
各日とも午前9時30分～11時30分

(2) 場所 藤沢市本庁舎市民利用会議室 3（11/5）、2（11/12）

(3) 講師 紙芝居文化推進協議会 理事 紙芝居/子/字/原 原長 澤田けい子氏

(4) 対象 藤沢市在住の20歳以上の方（定員先着10名）

■参加費 2,000円

■申込み 10月28日（金）までに、ホームページお問合せ、電話またはEメールで  
お申込み 氏名 住所 電話番号  
を書いて、NPO法人紙芝居Projectまでご連絡ください。

■詳細 NPO法人紙芝居Projectホームページ（<https://www.kamipro.info/>）  
または下記二次元コードからご覧ください。

主催 NPO法人紙芝居Project  
〒251-0254 藤沢市川崎町13-5-22  
Tel:090-2259-7092（随時受付）/Fax:0456-52-6907  
※この事業は「藤沢市ミライカナエル活動サポート事業」令和4年度  
採択事業です。

事業を実施しての課題

「紙芝居を演じる」技術は、1回の受講で完成するものではなく、繰り返しの練習や実際に演じることが必要となる為、受講終了生に向けた練習会の定期的な開催が重要になること。また、今まではプロを派遣していたが、今後はボランティアを派遣することになる為、その技量・マナー等の「質の担保」をどの様にしていくのか？受け入れ側も、全てが手放して喜んでくれる訳では無いので、施設側とのコミュニケーション・信頼の形成をどう築いていくかがポイントとなると想定される。ただ、参加者の意欲・向上心はとても高く、いずれのスキルも「学ぶ機会」をしっかりと提供出来れば、問題は解決出来ると思われる。

## 〈令和4度〉ミライカナエル活動サポート事業 ステップアップ支援コース

団体名	Rankup
事業名	貧困世帯に向けた子ども支援事業
補助金額	500,000円

### 事業の目的

事業目的は未来ある子どもたちの笑顔を増やすことです。特に子どものいる貧困世帯への支援を行います。貧困世帯への支援団体に食料や日用品などの物資を寄付することでその世帯の生活支援を行います。

### 事業の内容と成果・効果

#### 〈事業の経過と内容〉



【1 絆食堂】毎月第1・第3土曜日に子ども無料の食事提供を実施しました。子ども支援だけでなく、子どもや高齢者等の孤食の解決にも繋がりました。子どもだけでなく、老若男女問わず、誰もが訪れられる、そんな地域の拠り所の役割を果たせました。

【2 絆市】自団体が栽培した野菜を販売しました。売上金の一部で物資を購入し、貧困世帯を支援している団体等に提供しました。

【3 絆BOX】絆BOXという寄付箱を設置し地域の方から物資を寄付していただきました。集まった物資に関しては貧困世帯を支援している団体等に物資を提供しました。



【SNSでの周知活動】毎回絆食堂や絆市を実施する前にSNSで宣伝し、周知活動に取り組みました。実際、SNSを見て、来られた方や絆食堂のお手伝いをしたいという方もいらっしゃいました。ここ最近では、私たちの投稿を見て、子どもを支援する活動をしたい方や不登校のお子さんがいる親御さんからの連絡をもらうなど、一定の効果があつたと感じます。

#### 〈成果・効果〉

成果に関して、絆食堂16回、延べ来客数241名、絆市13回、寄付回数4回を実施することができました。8ヶ月間それぞれの取り組みを継続的に実施し、SNSでの活動報告を行ってきました。その結果、認知度の上昇、ボランティアの方を含め支援して下さる方が増加しました。その先の効果として、特に絆食堂の活動が大きく感じられました。当初は、子ども支援をメインで考えていました。ただ、実際活動すると、子どもだけでなく、老若男女問わず、地域の方が来てくれました。特に小さいお子さんがいる方からは「地域に子どもと一緒に来られて、落ち着けるところは少ないから、本当に有難いです」など、こちらの励みになる言葉をいただいています。



### 事業を実施しての課題

#### ① 絆食堂への来客数

地下と地域の特性もありますが、他の子ども食堂と比べ、来られる人数が少ないことが課題です。団体を継続的に運営する面、もっと生活に困っている方や子どもたちに来てもらいたい思いがあるので、この課題を解決しなければなりません。

#### ② 団体を継続的に運営する基盤

年々、団体収入が増えていますが、まだ補助金あつての運営なのが課題です。

自団体の収入源は野菜販売、絆食堂になりますので、これらの収入源をいかに強化するかが課題となります。

## 〈令和4年度〉ミライカナエル活動サポート事業 協働コース（行政以外との協働）

<b>団体名</b>	特定非営利活動法人 湘南食育ラボ
<b>協働相手</b>	特定非営利活動法人 laule'a
<b>事業名</b>	ハレの日を楽しむユニバーサルレストラン
<b>事業期間</b>	2022年（令和4年）4月1日～2023年（令和5年）3月31日〈事業1年目〉
<b>事業費</b>	2,093,032円（うち藤沢市補助金 1,500,000円）

### 事業の目的

加齢による嚥下障害については知られていますが、食べることに困難を抱えている子どもたちがいることはあまり知られていません。ラウレアさんとのやり取りの中で嚥下に障がいのあるお子さんが外食時、中でも七五三やクリスマスなどの”ハレの日”にも家族で同じものが食べられなかったり持込も拒否されたりすることがあるということを知りました。今回の事業を通してそれらの悩みを軽減することを目的とします。「ハレの日を楽しむユニバーサルレストラン」を協働事業とし、家族で楽しめるハレのディナーのランチ、ディナーの宅配とともに、食形態に関わらず家族で同じ食事が楽しめるユニバーサルレストラン等をプロジェクト化し障がいによって嚥下の難しいお子さんとご家族が笑顔で食生活を送れる為の活動を推進します。2年間の実施期間があるコースなので食事を提供する場を作るだけでなく、広報活動なども行い、広く市民の方に利用していただける場所づくりを進めていきます。

### 事業の内容と成果・効果

- ・2022年4月 食育ラボとラウレア、ラウレアにお子さんを通所させている保護者の方たちとの顔合わせ、今後のプロジェクトの方針や進め方を共有、保護者の方たちが普段食事でのご苦労や不自由なことなどを伺った。
- ・2022年5月 元々事業場所として考えていた善行キッチンではなく、段差が少なく車いすでの出入りが容易、大型の車いすが複数台入っても十分な広さ、大型車を停める駐車スペースが十分、使い慣れた厨房があるという理由から松下政経塾内の厨房と食堂を一時的に事業実施場所とすることに決定。
- ・2022年6月 プロジェクトメンバーだけでなくラウレアの他の保護者の方たちにも回答していただけるアンケートを作成。ペースト食を提供しているレストランにそれぞれ視察に行き、後日報告することに決定。
- ・2022年7月 松下政経塾内を実際に保護者の方に見学していただく。6月に作成したアンケート84件回収。
- ・2022年8月 食育ラボのスタッフ3名で、新横浜にある Maison HANZOYA へ視察。ラウレア側でもいくつかのレストランへ視察。視察の内容を元に試食会への準備。
- ・2022年9月10日 試食会の詳細を決定
- ・2022年12月 17(土)に試食会実施
- ・2023年1月 試食会の振り返りと次回試食会の日程を決定
- ・2023年2月 26(土)に第二回試食会を実施
- ・2023年3月 今年度の振り返りと来年度に向けての調整



### 〈成果・効果〉

この事業を実施する上で必ず必要となる保護者の方たちと連携して事業を進められたことで当事者の方たちの考えや意見を知ることが出来た。それによってその後の試食会などもスムーズに行うことが出来た。ユニバーサルレストランを実施する前段階としてケータリング形式で食事を提供しようと考えていたが、実施場所の確保も出来たためレストラン形式で食事の提供を行うことが出来、最終のゴールの形も見えてきた。ミーティングなどで意見を出し合っただけで実施しても実際の試食会の中で学びや気づきが多くあった。試食会の後保護者の方達から周りを気にせずゆっくりと食事が出来てよかった、子どもを連れて初めて外食した、という声もただけでそれが一番の成果だと感じた。

### 事業を実施しての課題・今後の取組

嚥下障害を持つ当事者のご家族以外にも、レストラン経営者、商工会議所などの専門家や本プロジェクトに関心のある方々を試食会にご招待して、地域社会にインクルーシブな外食環境を作り出していくためのアイデアを検討していきます。令和4年度は身近な人に向けた活動が多くなり、発信力が課題でもあったので令和5年度はより多くの方に利用していただけるよう広報活動にもより力を入れていきたいと考えております。

**〈令和4年度〉ミライカナエル活動サポート事業 協働コース（行政以外との協働）**

<b>団体名</b>	関内イノベーションイニシアティブ株式会社	
<b>協働相手</b>	株式会社フジマニパブリッシング	
<b>事業名</b>	湘南セカンドキャリア地域起業セミナー	
<b>事業期間</b>	2022年（令和4年）4月1日～2023年（令和5年）3月31日〈事業1年目〉	
<b>事業費</b>	1,945,780円（うち藤沢市補助金 1,500,000円）	
<b>事業の目的</b>	<p>営利・非営利、事業分野の枠を超えた地域起業の担い手の創出と、それらへの支援体制の構築をはかり、藤沢における地域活動や地域経済の活性化をはかる。</p>	
<b>事業の内容と成果・効果</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2022年7月               <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回支援機関情報交換会</li> <li>金融機関など12機関22名が出席し、ソーシャルビジネス支援等について情報交換を行った。</li> </ul> </li> <li>・2022年8月               <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回 湘南セカンドキャリア地域起業セミナー</li> <li>内容 オリエンテーション・藤沢市の現況・「自治会町内会における活動と現状～自治会町内会に寄り添う「オール湘南大庭」を目指して～」</li> </ul> </li> <li>・2022年9月               <ul style="list-style-type: none"> <li>第2回 湘南セカンドキャリア地域起業セミナー</li> <li>内容 「地域における起業とは」</li> <li>「Why Me? スキルと経験の棚卸しワークショップ」経験とスキル棚卸ワークショップ</li> <li>第3回 湘南セカンドキャリア地域起業セミナー</li> <li>内容 「事業計画の作り方」・先輩起業家ストーリー①</li> </ul> </li> <li>・2022年10月               <ul style="list-style-type: none"> <li>第4回 湘南セカンドキャリア地域起業セミナー</li> <li>内容 「収支計画の作り方」・先輩起業家ストーリー②</li> <li>第5回 湘南セカンドキャリア地域起業セミナー</li> <li>内容 現地視察（藤沢市市民活動推進センター、ヨロシク♪まるだい、NEKTON FUJISAWA、イノベーションスナックみらぼ）</li> </ul> </li> <li>・2022年11月               <ul style="list-style-type: none"> <li>第6回 湘南セカンドキャリア地域起業セミナー</li> <li>内容 「地域起業プランから読み取る地域課題」</li> <li>第7回 湘南セカンドキャリア地域起業セミナー</li> <li>内容 最終発表</li> </ul> </li> <li>・2022年12月 第2回支援機関情報交換会               <ul style="list-style-type: none"> <li>8機関15名が出席し、今後の事業のあり方、地域起業をする際の課題等について、幅広く議論が行われた。</li> <li>〈成果・効果〉33名の受講生が積極的にセミナー参加し、受講生同士のネットワークが形成された。受講生からは、「様々な人と出会えた」「受講料5,000円は破格」等の声が聞かれた。支援機関情報交換会は、藤沢地域におけるソーシャルビジネス誕生の可能性やその支援方法について、支援機関に再認識していただく機会になった。</li> </ul> </li> </ul>	
<b>事業を実施しての課題・今後の取組</b>	<p>（事業を実施しての課題）</p> <p>全体的に講義内容が多く、受講生も想定以上だったため、受講生の発言や交流する機会が少なかったことや起業プランの発表時間が短かったことが課題。2023年度も湘南セカンドキャリア地域起業セミナー及び支援機関情報交換会を開催予定。課題を改善するとともに、事業計画発表後にフォローアップの機会も確保する予定。</p>	



（写真上）湘南セカンドキャリア地域起業セミナーチラシ

**〈令和4年度〉ミライカナエル活動サポート事業 協働コース（行政との協働）**

<b>団体名</b>	特定非営利活動法人 自立生活サポートセンター・もやい
<b>協働相手</b>	藤沢市 地域共生社会推進室
<b>事業名</b>	孤立状態にある人と共に生きるための畑作り
<b>事業期間</b>	2022年（令和4年）4月1日～2023年（令和5年）3月31日〈事業2年目〉
<b>事業費</b>	980,542円（うち藤沢市負担金840,000円）
<b>事業の目的</b>	
誰一人として取り残されない社会にしたい。孤立状態から抜け出すための「畑」を使った地域での仕組みが継続して運用され、誰もが何かしらの役割をもち、地域や社会の中で、助け合い、ともに生きていけるようになること。そして、このモデルが他の地域コミュニティにも広がることにより、貧困問題のみならず農業従事者の減少や耕作放棄地の問題など、他の社会問題の解消にも寄与していけるようになること。	
<b>事業の内容と成果・効果</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2022年4月 もやい畑のFacebook ページ作成、毎週の活動報告を実施</li> <li>・2022年5月 民生委員児童委員協議会会長会で周知</li> <li>・2022年6月23日 春の収穫祭（ジャガイモ堀り）を開催</li> <li>・2022年6月28日 さんわーくかぐや訪問、日本農業新聞の取材をうける</li> <li>・2022年7月28日 玉ねぎ染め企画リハーサルを開催</li> <li>・2022年8月18日 玉ねぎ染め企画開催</li> <li>・2022年9月15日 農業水産課と新拠点の畑について相談</li> <li>・2022年10月27日 秋の収穫祭（サツマイモ堀り）を開催</li> <li>・2022年11月 稲刈り開催</li> <li>・2022年11月17日 びわ染め企画リハーサルを開催</li> <li>・2022年12月8日 びわ染め企画開催</li> <li>・2023年1月 畑応援隊のチラシを作成</li> <li>・2023年2月 畑の引越しに関する案内を作成、市民センター・公民館に配架、民生委員に周知</li> <li>・2023年3月 来年度の契約を締結（秋葉台の畑・下土棚の田んぼ）</li> </ul> <p align="center">〈もやい〉季刊誌で畑応援隊の募集を告知</p> <p>〈成果・効果〉</p> <p>畑の参加者数 延べ359名（藤沢市民41名）</p> <p>地域イベントへの参加 1回（遠藤地区「あなたの人生会議」）</p> <p>畑を通じたイベント 2回（見学会/収穫祭）</p>	
	
<p>（写真上）もやい畑@藤沢</p>	
<b>事業を実施しての課題・今後の取組</b>	
<p>（課題）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域からの参加者や他団体との連携を今後も進めていく。</li> <li>2. 畑応援隊の募集がまだ少ない</li> </ol> <p>（今後の取組）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 来年度以降も畑でのイベントおよび畑以外のイベントを行う。また、新たに田んぼでの活動を行うことにより、そちらのイベントを行うことで開催数を増やしていく。また、民生委員の研修などの受け入れ先になる。他団体との連携を企画していく。</li> <li>2. 〈もやい〉のホームページや季刊誌で継続的に募集をかけていく。また、参加された方のストーリーを個人特定できない形で「応援隊通信」などに載せていくことで、より多くの人にもやい畑の存在や有効性を知ってもらえるようにする。</li> </ol>	

**〈令和4年度〉ミライカナエル活動サポート事業 協働コース（行政との協働）**

<b>団体名</b>	フジサワキカク
<b>協働相手</b>	藤沢市 広報シティプロモーション課
<b>事業名</b>	#フジサワの高校生
<b>事業期間</b>	2022年（令和4年）4月1日～2023年（令和5年）3月31日〈事業2年目〉
<b>事業費</b>	1,204,440円（うち藤沢市負担金1,000,000円）
<b>事業の目的</b>	
本事業が目指すのは、高校生を対象とした地域からの継続的なコンテンツ発信を通じて、藤沢市を「青春の街」として差別化、高校生をはじめとした10代が将来帰ってきたくなる街にすることである。	
<b>事業の内容と成果・効果</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2022年4月 7373 ラジオ2期（高校生がパーソナリティーのラジオ番組）を開始</li> <li>・2022年5月 写ルンです写真展（高校生カメラマンが撮影した藤沢の高校生生活を展示）</li> <li>・2022年6月 #期限切れポエム（高校生活を振り返ったポエムを藤沢出身アーティストのイラストと共に紹介）</li> <li>・2022年7月 #放課後青春飯キャンペーン（地元飲食店と期間限定で高校生に大盛りや餃子を差し入れ）</li> <li>・2022年7月 選挙ポスト（初選挙の高校生を祝福する投稿をInstagramでポスト）</li> <li>・2022年8月 夏ポスター（夏をより感じてもらうため、「おーい、夏。」というメッセージを発信）</li> <li>・2022年9月 絵になる思い出キャンペーン（高校生から集めた思い出をイラスト化するキャンペーン）</li> <li>・2022年10月 #平成の高校生（平成の高校生の部屋を再現したフォトブースをテラスモール湘南で展開）</li> <li>・2022年11月 THE POWER OF KOUKOUSEI 2023 出演者募集</li> <li>・2023年1月 江島神社お守りポスター（受験生応援のため江島神社の合格守りをポスターとして展示）</li> <li>・2023年2月 #青春のワンカット撮影（藤沢市内各所をロケ地に高校生の日常を描く15秒ムービー）</li> <li>・2023年3月 THE POWER OF KOUKOUSEI 2023 開催 （3月21日江ノ島西浜特設ステージに市内から15組の高校生が参加）</li> </ul>	
<p>＜成果・効果＞</p> <p>●コンテンツ事業 SNS フォロワー数 680 人 （@fujiswanokoukousei、@73.73radio、@thepowerofkoukousei） コンテンツ参加人数約 70 人</p> <p>●大人サポート事業 協力資金総額 116,500 円      支援・協力企業/団体 10 社</p>	
 <p>(写真上) THE POWER OF KOUKOUSEI 2023 THE POWER OF KOUKOUSEI 2023 フライヤー</p>	
<b>事業を実施しての課題・今後の取組</b>	
<p>総予算、団体規模に対して事業規模が大きすぎたことが問題であった。事業を継続するに当たり人材確保、予算確保が課題となる。2年間の活動を通じて、上記2点を構築する予定だったが、コンテンツの制作にほぼ全てのリソースを投入してしまい（投入しないと回らない規模と量であった）手が回らなかったという実情がある。その一方、本事業より生まれた Instagram アカウント@fujisawanokoukousei、7373 ラジオ、THE POWER OF KOUKOUSEI といったコンテンツは全国の市町村を見渡してもユニークなコンテンツであった。本事業の目的を果たすためには、コンテンツの一部継続、新規コンテンツの継続発信が必要である。今年度でミライカナエル活動サポート事業の補助金が無くなり資金不足が浮き彫りになるからこそ、来年度は人材面で地域企業、団体、個人との更なる連携が必須となる。#フジサワの高校生プロジェクトは「藤沢の高校生向けコンテンツのプラットフォーム」として、藤沢エリアにおける高校生向けコンテンツの開発を継続して推進していく。フジサワキカクはその幹事団体として、広報シティプロモーション課は後援などとして協力していく予定である。</p>	

発行：2024年(令和6年)7月